

2017/3/31(金)

『フリースの子守歌』(モーツァルトの子守歌)

堀内敬三作詞・フリース作曲

ねむれよい子よ 庭や牧場に
鳥もひつじも みんなねむれば
月はまどから 銀の光を
そそぐ この夜
ねむれよい子よ ねむれや

家の内外 音はしずまり
たなのねずみも みんなねむれば
奥のへやから 声のひそかに
ひびくばかりよ
ねむれよい子よ ねむれや

いつも楽しい しあわせな子よ
おもちゃいろいろ あまいお菓子(かし)も
みんなそなたの めざめ待つゆえ
夢にこよいを
ねむれよい子よ ねむれや

「シューベルトの子もり歌」

内藤濯訳詞・シューベルト作曲

ねむれねむれ 母の胸(むね)に
ねむれねむれ 母の手に
こころよき 歌声に
むすばずや 楽しゆめ

ねむれねむれ 母の胸に
ねむれねむれ 母の手に
あたたかき その袖(そで)に
つつまれて ねむれよや

ねむれねむれ かわいわく子(ご)
一夜(ひとよ)寝(い)ねて さめてみよ
くれないの ばらの花
開くぞや まくらべに

ねむれねむれ 母の胸に
一夜寝ねて 起きてみよ
かおりよき ゆきの花
におうぞや ゆりかごに

3/31(金)

日本の伝統的の子守歌 2つ:

『江戸子守唄』

日本古謡 竹田の子守歌
京都地方民謡

ねんねんころりよ おころりよ
ぼうやはよい子だ ねんねしな

ぼうやのおもりは どこへいった
あの山越えて 里へいった

里のみやげに なにもろた
でんでんたいこに しょうの笛

『中国地方の子守唄』

中国地方民謡 作曲:山田耕筰

ねんねこしゃっしやりませ
寝た子のかわいさ
おきて泣く子の ねんころろ 面にくさ
ねんころろん ねんころろん

ねんねこしゃっしやりませ
今日は二十五日さ

明日はこの子の ねんころろ 宮詣り
ねんころろん ねんころろん

宮へ詣ったとき
なんというて拝むさ
一生この子の ねんころろ まめなよに
ねんころろん ねんころろん

3/30(木)

AKB48 の桜の葉も卒業の歌ですね。

『桜の葉』

作詞:秋元康 作曲:上杉洋史

春のそよ風が
どこからか吹き
通り慣れた道
彩りを着替える

喜びも悲しみも
過ぎ去った季節
新しい道
歩き始める

桜の花は
別れの葉
ひらひらと手を振った
友の顔が浮かぶ
桜の花は
涙の葉
大切なこの瞬間(とき)を
いつまでも忘れぬように...

空を見上げれば
その大きさに

果てしなく続く
道の長さを知った

晴れの日も雨の日も
明日は来るから
微笑みながら
一歩 踏み出す

桜の花は
未来の葉
いつか見たその夢を
思い出せるように...
桜の花は
希望の葉
あきらめてしまうより
このページ 開いてみよう

桜の花は
心の葉
輝いた青春の
木漏れ日が眩しい
桜の花は
あの日の葉
人はみな 満開に
咲いた夢 忘れはしない

3/30(木)

キャンパスの桜は来週の入学式には満開となりそうですが、現在はまだ一部の早咲きの桜だけが咲いています。卒業式のシーズンは終わりました。数日後には卒業生は社会人ですね。各持ち場で精一杯頑張ってもらいたいと思います。卒業式では今は何を歌うんでしょうか？私達の頃はもっぱら「仰げば尊し」でした。「今こそわかれめ」の「わかれめ」が「こそ」の係り結びで、「わかれむ」の已然形であることは高校の古文で習いましたが、忘れていた方もありそうです：

『仰げば尊し』

作詞:文部省唱歌 作曲:文部省唱歌

一、

仰げば尊し、わが師の恩。
教の庭にも、はやいくとせ。
おもえばいと疾し、このとし月。
今こそわかかれめ、いざさらば。

二、

互いにむつみし、日ごろの恩。
わかるる後にも、やよわするな。
身をたて名をあげ、やよはげめよ。
今こそわかかれめ、いざさらば。

三、

朝ゆうなれにし、まなびの窓。
ほたるのともし火、つむ白雪。
わするるまぞなき、ゆくとし月。
今こそわかかれめ、いざさらば。

3/27(月)

番田より丹沢山系を望む。3月も残り僅か:

『どこかで春が』

百田宗治作詞・草川信作曲

どこかで「春」が 生まれてる
どこかで水が 流れ出す

どこかで雲雀が 啼いている
どこかで芽の出る 音がする

山の三月 そよ風吹いて
どこかで「春」が うまれてる

3/25(土)

毎朝 6 時 25 分から 10 分間、テレビ体操をやっています。先日、いつものように始めようとしたら、珍しくピアノがあるメロディーの冒頭のところを弾きました。どこかできいた曲だと思いましたが、「若者よ」だ、と気づきました。「若者よ」は作詞者のぬやまひろしの「詩集 編笠」(1946, 昭和 21 年)に発表され、のちに歌声喫茶(昭和 30-40 年頃に流行)で盛んに歌われていたそうです。子供の頃、よく聞きました。

『若者よ』

作詞: ぬやまひろし 作曲: 関忠亮

若者よ 体を鍛えておけ
美しい心が たくましい体に
からくも支えられる 日がいつかはくる
その日のために体を鍛えておけ
若者よ

『ふじの山』

作詞: 巖谷小波。作曲: 不詳

あたまを雲の 上に出し
四方の山を 見おろして
かみなりさまを 下に聞く
富士は日本一の山

青空高く そびえ立ち
からだに雪の 着物着て
霞のすそを 遠く曳く
富士は日本一の山

3/20(月)(春分の日)

春で思い出す「花の街」は、タイトルから想像する明るさよりも何か物思いに沈んだ感

じが気になってインターネットで調べてみたところ次のような記事が見つかって納得しました。

「江間さんは、この歌について、次のように書いている。

「花の街」は私の幻想(げんそう)の街です。

戦争が終わり、平和が訪れた地上は、瓦礫(がれき)の山と一面の焦土(しょうど)に覆(おお)われていました。その中に立った私は夢を描(えが)いたのです。ハイビスカスなどの花が中空(なかぞら)に浮(う)かんでいる、平和という名から生まれた美しい花の街を。

詩の中にある「泣いていたよ 街の角で……」の部分は、戦争によってさまざまな苦しみや悲しみを味わった人々の姿を映したものです。

この詩が曲となっていっそう私の幻想の世界は広がり、果てしなく未来へ続く「花の街」となりました。(教育芸術社音楽教科書より)」

『花の街』

江間章子作詞・團伊玖磨作曲

七色の谷を越えて
流れて行く 風のリボン
輪になって 輪になって
かけていったよ
歌いながら かけていったよ

美しい海を見たよ
あふれていた 花の街よ
輪になって 輪になって
踊っていたよ
春よ春よと 踊っていたよ

すみれ色してた窓で
泣いていたよ 街の角で
輪になって 輪になって
春の夕暮れ
ひとりさびしく ないていたよ

3/20(月)春分の日

街を歩いているとそこここに春を感じます。

『どこかで春が』

百田宗治作詞・草川信作曲

どこかで「春」が 生まれてる
どこかで水が 流れ出す

どこかで雲雀が 啼いている
どこかで芽の出る 音がする

山の三月 そよ風吹いて
どこかで「春」が うまれてる

3/17(金)

「北国の春」もふるさとを思う歌ですね。

『北国の春』

作詞:いではく 作曲:遠藤 実

白樺青空 南風
こぶし咲く あの丘 北国の
ああ 北国の春
季節が都会では わからないだと
届いたおふくろの 小さな包み
あの故郷へ 帰ろかな 帰ろかな

雪解け せせらぎ 丸木橋
からまつの 芽がふく 北国の
ああ 北国の春
好きだとお互いに 言い出せないまま
別れてもう五年 あの娘はどうしてる
あの故郷へ 帰ろかな 帰ろかな

山吹 朝霧 水車小屋
わらべ歌 聞こえる 北国の
ああ 北国の春
兄貴も親父似で 無口な二人が
たまには酒でも 飲んでるだろか
あの故郷へ 帰ろかな 帰ろかな

3/17(金)

妻の母が 92 歳で亡くなり、今日はお別れと感謝の祈りを捧げるために家族みんなで伊賀市にやって来ました。4 人の子供たち(と言っても既に成人してそれぞれ独立した立派な大人ですが)にとって、伊賀上野は幼い時から何度も訪れた心のふるさとです:

『ふるさと』

作詞:高野辰之 作曲:岡野貞一

兎追いしかの山 小鮒釣りしかの川
夢は今もめぐりて 忘れがたき故郷

如何にいます父母 恙なしや友がき
雨に風につけても 思いいずる故郷

こころざしをはたして いつの日にか帰らん
山はあおき故郷 水は清き故郷

3/16(木)

もう一つ、春といえば、

『春が来た』

作詞: 岡野貞一、作曲: 高野辰之

春が来た 春が来た どこに来た

山に来た 里に来た 野にも来た

花がさく 花がさく どこにさく
山にさく 里にさく 野にもさく

鳥がなく 鳥がなく どこでなく
山でなく 里でなく 野でもなく

さらに心が弾むと、

『春の唄』

作詞: 喜志 邦三 作曲: 内田 元

1. ラララ赤い花束 車に積んで
春が来た来た 丘から町へ
すみれ買いましょ あの花売りの
かわい瞳に 春のゆめ
2. ラララ青い野菜も 市場について
春が来た来た 村から町へ
朝の買い物 あの新妻の
かごにあふれた 春の色
3. ラララ鳴けよちろちろ 巣立ちの鳥よ
春が来た来た 森から町へ
姉と妹の あの小鳥屋の
店の先にも 春の唄
4. ラララ空はうららか そよそよ風に
春が来た来た 町から町へ
ビルの窓々 みな開かれて
若いころに 春が来た

3/16(木)

今朝の多摩川。見慣れた風景ながら、春の光を感じます。多摩川は大河ですが、浮かんで来るのは、春の小川:

『春の小川』

作詞:高野辰之 作曲:岡野貞一

春の小川は さらさら行くよ
岸のすみれや れんげの花に
すがたやさしく 色うつくしく
咲けよ咲けよと ささやきながら

春の小川は さらさら行くよ
えびやめだかや 小ぶなのむれに
今日も一日 ひなたでおよぎ
遊べ遊べと ささやきながら

3/15(水)

雨降りのついでにもう一つ。

『雨降りお月さん』

野口雨情作詞、中山晋平作曲

雨降りお月さん 雲の蔭
お嫁にゆくときゃ 誰とゆく
ひとりで傘(からかさ) さしてゆく
傘(からかさ)ないときゃ 誰とゆく
シャラシャラ シャンシャン 鈴付けた
お馬にゆられて 濡れてゆく

いそがにやお馬よ 夜が明けよ
手綱(たづな)の下から ちよいと見たりや
お袖でお顔を 隠してる

お袖は濡れても 干しゃ乾く
雨降りお月さん 雲の蔭
お馬にゆられて 濡れてゆく

3/14(火)

今朝は雨でした。雨といえば「あめふり」

『あめふり』

作詞:北原白秋 作曲:中山晋平

あめあめ ふれふれ かあさんが
じゃのめで おむかえ うれしいな
ピッチピッチ チャップチャップ
ランランラン

かけましょ かばんを かあさんの
あとから ゆこゆこ かねがなる
ピッチピッチ チャップチャップ
ランランラン

あらあら あのこは ずぶぬれだ
やなぎの ねかたで ないている
ピッチピッチ チャップチャップ
ランランラン

かあさん ぼくのを かしましょか
きみきみ このかさ さしたまえ
ピッチピッチ チャップチャップ
ランランラン

ぼくなら いいんだ かあさんの
おおきな じゃのめに はいってく
ピッチピッチ チャップチャップ
ランランラン

天国の私の母には「お迎え」はもう少し待ってもらおうと思います。

3/9(木)

晴れた夜空を飾る星座は何かしら心に落ち着きを与えてくれます。冬の星座と言えばオリオン座。清少納言も見ていた すばる はオリオン座の真ん中の三つ星を右に延長したところにあるんですね。すばるが1つの星ではなくて、複数の星からなるというのは最近まで知りませんでした。物理学から生物学に移って分子生物学の基礎を確立してノーベル賞を受賞した、かのデルブリュックも星を見るのが好きだったようです。彼の(難解な)Mind from Matter? のあとがきには、「草原に寝転がって星を見ていると、星は何千光年、何万光年のかなたにあるので、今見ている星の中にはもう存在しないものもある、と考えると不思議な気がする。」と書いています。

『冬の星座』

堀内敬三訳詞・ヘイス作曲／文部省唱歌

木枯らしとだえて
さゆる空より
地上に降りしく
奇(くす)しき光よ
ものみないこえる
しじまの中に
きらめき揺れつつ
星座はめぐる

ほのぼの明かりて
流るる銀河
オリオン舞い立ち
すばるはさざめく
無窮(むきゆう)をゆびさす
北斗の針と
きらめき揺れつつ
星座はめぐる

星と星座の絵は、「iStella」で見たものです。冬の大三角形と冬のダイヤモンドが分かります。

3/7(火)

三寒四温でしょうか。暖かい日が続いたと思うと寒い日になります。この季節、子供の頃よく見かけた近所の落ち葉焚きも、今は見られなくなりました。「寒い朝」も思い出します。

『たき火』

作詞: 巽 聖歌 作曲: 渡辺茂

垣根の垣根の曲がり角
たき火だたき火だ落ち葉焚き
あたろうか あたろうよ
北風ぴーぷー吹いている

山茶花山茶花咲いた道
たき火だたき火だ落ち葉焚き
あたろうか あたろうよ
しもやけお手てがもうかゆい

木枯らし木枯らし寒い道
たき火だたき火だ落ち葉焚き
あたろうかあたろうよ
相談しながら歩いてる

『寒い朝』

作詞: 佐伯孝夫 作曲: 吉田正

北風吹きぬく 寒い朝も

心ひとつで 暖かくなる
清らかに咲いた 可憐な花を
みどりの髪に
かざして今日も ああ
北風の中に 聞こうよ春を
北風の中に 聞こうよ春を

北風吹きぬく 寒い朝も
若い小鳥は 飛び立つ空へ
幸福(しあわせ)求めて
摘みゆくバラの
さす棘(とげ)いまは
忘れて強く ああ
北風の中に 待とうよ春を
北風の中に 待とうよ春を

北風吹きぬく 寒い朝も
野越え山越え 来る来る春は
いじけてないで 手に手をとって
望みに胸を
元気に張って ああ
北風の中に呼ぼうよ春を
北風の中に呼ぼうよ春を

3/6(月)

今朝、川岸にはやはりカモメが並んでいましたが、見晴らし公園側は鳩でした:

『はとぼっぽ』

作詞・作曲不詳

「幼稚園唱歌」(明治33年)

一、ぼっぽっぽ 鳩ぼっぽ
豆がほしいか そらやるぞ
みんなで仲良く食べに來い

二、ぽっぽっぽ 鳩ぽっぽ
豆はうまいか 食べたなら
一度にそろって飛んで行け

実は「はとぽっぽ」には原曲があり、こちらは東くめ作詞、滝廉太郎作曲である。歌詞もメロディーも異なっている。

『鳩ぽっぽ』
作詞 東くめ 作曲 滝廉太郎
『文部省唱歌』(明治44年)

鳩ぽっぽ 鳩ぽっぽ
ぽっぽぽっぽと とんでこい
お寺の屋根から おりてこい
豆をやるから みなたべよ
たべてもすぐに かえらずに
ぽっぽぽっぽと 鳴いて遊べ

3/5(日)

薄曇りの空に月が出て、朧月夜。懐かしい歌が記憶に甦って来ました:

『朧月夜』
作曲:岡野貞一、作詞:高野辰之

菜の花畠に 入り日薄れ
見わたす山の端 霞ふかし
春風そよふく 空を見れば
夕月かかりて におい淡し

里わの火影も 森の色も
田中の小路を たどる人も
蛙のなくねも かねの音も
さながら霞める 朧月夜

3/3(金)

海が近いため、カモメが沢山やってきます。今朝の多摩川。

『かもめの水兵さん』

作詞:武内俊子 作曲:河村光陽

かもめの水兵さん
ならんだ水兵さん
白い帽子(ぼうし) 白いシャツ 白い服(ふく)
波にチャップ チャップ
うかんでる

かもめの水兵さん
かけあし水兵さん
白い帽子 白いシャツ 白い服
波をチャップ チャップ
越(こ)えてゆく

かもめの水兵さん
ずぶぬれ水兵さん
白い帽子 白いシャツ 白い服
波でチャップ チャップ
おせんたく

かもめの水兵さん
なかよし水兵さん
白い帽子 白いシャツ 白い服
波にチャップ チャップ
揺(ゆ)れている